

議員（隅岡 美子）

11番、隅岡 美子、順次一般質問をさせていただきます。

質問は、高齢難聴者の聞こえのフレイルについてであります。

以下3点について、一問一答方式でよろしくお願い致します。

聞こえのフレイルとは、聞き取る力が衰えることです。

聴力の衰えが進むと会話に消極的になったり、活動範囲が狭まったりするため認知症やうつ状態のリスクが高くなります。

国立長寿医療センターの疫学調査によれば、軽度難聴レベルの有病率は65歳以上から急激に増え始め75歳から79歳では、男性が71.4%、女性が67.3%、80歳以上になると男性84.3%、女性73.3%とほとんどの方が加齢に伴う難聴を患っていることが明らかになっております。

高齢者の方は、聞こえにくくなると相手にそのことを伝えられず、聞こえたふりをしたり、会話の声が聞こえず自ら人との会話や交流を避ける傾向になります。やがて、うつや無気力、認知機能の低下に繋がっていく方もおられると思います。

早期に補聴器で聞こえをサポートする事で認知症予防に一定の効果が期待出来るということです。認知症の進行を防ぐためにも加齢性難聴を早期に発見し、適切な治療を行う事が大切になってまいります。

そこでお伺い致します。聞こえのフレイルの予防推進について、本町ではどのように捉え、また、どのように取り組まれていくのかをお伺い致します。

町長（丸尾 幸雄）

隅岡議員の聞こえのフレイルの予防促進について、本町ではどのように捉え、どのように取り組んでいるのかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

ご質問にもありますとおり、聞き取る力が衰えると特に高齢者は会話に消極的となり、活動範囲が狭くなることで、うつや無気力、認知機能の低下に繋がると言われております。

聞こえのフレイルは、老化の一種で、誰もがなる可能性があります。

大音量でテレビを見たり、音楽を聴いたりしないことや騒音など大きな音が常時出ている場所を避けること、静かな場所で耳を休めることや耳まわりの血行よくするためにストレッチや耳引っ張り体操等を日常生活に取り入れる等、生活習慣の中で予防することを健康相談や健康教室などで周知啓発に努めてまいります。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました。町長のご答弁の中から再質問です。

この町長言われた答弁の中で、少し重複する箇所があるかも知れませんが、ご容赦願います。こういった症状のほかにヒアリングフレイルかもということで、例えば家族にテレビやラジオの音量が大きいと言われる。また、相手の言ったことを推測で判断することがある。集会や会議など数人の会話でうまく聞き取れないことがある。また、話声が大きいと言われる。また、聞き返すことがよくある。聞こえた振りをしてしまう。また、聞こえにくいことがきっかけで、外出することが億劫になったということで、私もすごく、この中で一つぐらいあります。

それで、そのご答弁の中からの質問です。最後の方ですけど、健康相談や健康教室など、これから聞こえのフレイルについて周知啓発に努めていきますということで、もし、この健康相談や健康教室の中で、こういった内容でしましたよとかこれからする予定でありますとか、そういったことがございましたら、ここでご教示をお願い致します。よろしくお願いします。

健康福祉課長（山内 剛）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

健康教室、健康相談で生活習慣病予防相談というのがあって毎月行っております。広報の保健だよりの行事予定の方に掲載しています。6月は、もう終わりましたが、6日の金曜日、20日の金曜日、27日の金曜日を予定しております。また、こういう場所で、そういう耳の方の相談とかして頂きたいと思います。また、後の答弁の方で出てくるんですけども、昨年度は健康教室を行ないましたので、また、健康教室の方も結構参加者の方がたくさんおられたので来年度以降になると思いますが、行う予定をしております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました。これは、質問ではないんですけども、この聞こえのフレイルというのは、自分でもなかなか気がつかないことが多くて、気がついた時は、ある程度進んでいるということで、やはり何かの機会で早期発見、早期治療に繋げていくということが大切だと思っております。

続きまして、②の質問に入ります。また、豊島区では、加齢性難聴を早期発見するために65歳以上の区民の方を対象に無料でヒアリングフレイルチェックに取り組んでいます。介護予防の一つとして行っているということです。これは、民間企業が開発した無料のアプリ、みんなの聴力チェックアプリというアプリでございます。職員がタブレット端末を操作すると音が聞こえてきて、参加者はその音を聞き、聞こえてきた音を紙に書くものです。言葉の聞き取り状態を簡易的に把握するものです。

2023年にヒアリングフレイルチェックを受けた332人のうち、3割から4割の方

が聞こえに問題がありました。

本町でも早期発見に向けて、このアプリを使ったヒアリングフレイルチェックを導入してはと思います。町のお考えをお伺い致します。よろしくお願いします。

健康福祉課長（山内 剛）

隅岡議員の民間企業が開発したアプリを使って、早期発見に向けた聞こえのフレイルチェックを導入することについてのご質問に答弁をさせていただきます。本町におきましては、現在のところ民間企業が開発したアプリを使ってのチェックを導入することは考えていませんが、今後の対策として、医師や言語聴覚士などと協議したいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました。そこで、導入は考えておりませんが、今後、協議したいと考えています。少し期待をしておきます。よろしくお願いします。

そこで、私の方から提案をさせていただきます。このヒアリングチェックシートというものを活用しては。と私は考えております。最初の答弁にございましたように、6月6日にもお口のフレイル予防で実施をしたということで、今後、ヒアリングチェックシートというのが、大変活用したらいいのではないかと考えておりますが、その点いかがでしょうか、お願い致します。

健康福祉課長（山内 剛）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

ヒアリングチェックシートの導入につきましても、医師や言語聴覚士などと協議したいと考えております。私もちょっと詳しく、健康相談とかでどういう相談を受けていて、どういう風に回答しているのかというのは把握しておりませんが、ひょっとしたら、その中でヒアリングチェックシートとかは使われてるかも知れません。また、調べて、もし使ってなければ、出来るだけ使いたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました。有難うございます。

ヒアリングフレイルというのは、まず、皆様方に広く知って頂くということからスタートをすればいいかなと考えております。また、高齢者宅訪問の際には、このヒアリングチェックシートの活用をし、その方の聞こえのチェックをしながら、早期発見をし、また、町の地域包括センターとか難聴の具合によっては、適切な医療機関に、そのお話をしたり、適切な支援へ繋げていくという一連の流れで、そういったことも大変重要なことだと思っております。また、この普及啓発についてでございますが、こういったこともしていったらいいかなと思うことが、普及啓発はもちろんですけれどもリーフレットの作成とか簡

単なものでいいんですけど、そういった普及啓発のためのリーフレット作成なども提案をさせて頂きたいと思いますが、その点、いかがでしょうか。再質問です。お願いします。

健康福祉課長（山内 剛）

隅岡議員の再質問をさせていただきます。

議員さんの質問の中にありましたリーフレットとかを作成しての普及啓発は、また、色々考えながら作成したいと思います。また、行政の方ではそういうものを作っていませんけども、医療機関とかでは、そういうものを作っているかも知れませんので、また、調べながら、うまく活用出来るように考えたいと思います。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

答弁でございました。また、そういったことも前向きに捉えて頂くというこの理解を致しました。

先進地の豊島区だけではないんですけど、他の先進地の事例も調査研究して頂くということもよろしくお願いしたいと思います。

次に③番の質問です。本町においても難聴高齢者の早期発見や周囲が正しい知識を身につけることが重要であると考えます。職員をはじめ、住民の皆様への聞こえのフレイルに関する講演会等を開催してはと考えます。よろしく、ご答弁をお願い致します。

健康福祉課長（山内 剛）

隅岡議員の職員をはじめ、住民の皆様への聞こえのフレイルに関する講演会等を開催してはどうかについてのご質問に答弁をさせていただきます。

本町では、健康づくりに関心のある住民の方を対象に開催する令和6年度の健康づくりセミナーにおいて、四国こどもとおとなの医療センターの言語聴覚士を講師に迎え、「加齢と難聴、良い聞こえでより良い毎日を」と題し、令和7年1月21日に地域交流センターで講演会を開催しました。演題に興味を持たれた方に多く参加して頂き、今後も開催することを検討しています。

職員に対しましては、普段の窓口業務において特に難聴高齢者への対応は「話し始めの合図、ゆっくり区切って、目を見て、大きく口を動かす、静かな場所で、言い回しを変える、筆談」など丁寧に対応するよう周知しています。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でした。有難うございました。

その健康づくりセミナーで、四国こどもとおとなの医療センターで講演会を開いたということで、大変多く参加して頂きということを書いておりますが、何名位の参加者がありましたでしょうか。よろしくお願いします。

健康福祉課長（山内 剛）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

参加者は55人の参加がありました。これは昨年の令和6年度の健康づくりセミナーの中で、2番目に多い参加人数となっております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました。大変、多くの町民の皆様が参加をされたということで、本当にうれしく思っております。また、このフレイルの早期発見、早期治療ということで役場の方では、こういった大変、丁寧に対応をされておりますということのほかにも、前に一般質問をした時は、補聴器の購入というのは、まだ本町では実現はしておりません。そういったこととか補聴器を付けるなど、また、今までは骨伝導イヤホンというのがございまして、これは、宇多津ではもう実施をされておると聞いております。色々なことがございますけれども、本町では、こういったことを今、丁寧に進めておるということでございます。また、健康教室は次も開くということのご答弁を頂きまして、また、健康相談は各地区の公民館とか、高見いこいの家、佐柳本浦・長崎などでは、血圧測定とか検尿、体脂肪測定、塩分濃度測定などをされているようでございますが、こういったところにもヒアリングフレイルのチェック、また、そういったお話などを今後して頂けたらなと思っております。その辺りは、いかがお考えでしょうか。お願い致します。

健康福祉課長（山内 剛）

隅岡議員の再質問に答弁をさせていただきます。

各地区で行っております生活習慣予防相談の中でも議員さんがおっしゃるように、聞こえのチェックの方を取り入れていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（隅岡 美子）

ご答弁でございました。五感の中で最後まで残るのが、聴力という風に私も勉強しております。やはり大事な器官であります。健康寿命を延ばすためにも病気もそうです。早期発見、早期治療というのが大変重要でございます。また、私もこういったことで、しっかり気をつけましょうという事で何か症状があれば、すぐ対処していく。医療機関を受診するなど、そういったことで、本町においても皆さんが健康で楽しい生活が出来るようにと今回こういった質問を取り上げさせて頂きました。また、色々ありますけれども、しっかりと推進して頂けたらと思っております。

これで11番、隅岡 美子の一般質問を終わります。

皆様、ご答弁、有難うございました。